

洛星新闻

好きな食べ物はピザ、すき焼などの鍋物、すし
嫌いな物はレバー、いか、わさび
お酒も好きだけど、すぐに頭が痛くなる。
健康のため、ここ5年間禁煙中
血液型はO

京都市北区小松原南町
☎ (463) 3281 (代)
印刷／(有)片桐軽印刷

—— 今後の方針はファミリーですか、この雰囲気ね、つくりたい。それからやっぱり洛星というよね、京都の星ですね。ですから洛星はね、京都にプラスであるということのみなさんに伝えたい。ですからみんなは洛星の生徒であ

冬のモントリオールは街中が凍ってスケート場となります。ゲータンちゃんもスケート靴がほしくてたまりません。

年が明け、スケート靴の事もすっかりあきらめた頃、ゲータンちゃんに、何とスケート靴が届きました。実は話を聞いて感激したおばあちゃまからのプレゼントでした。(おしまい)

家庭を明るくして作業をしようという発想が有るのなら貧しいと言わざるをえないだろう。夜の暗さをたのしめる様になった時、日本が本当に豊かになったと言えるのではないだろうか。

六十二年度スタート



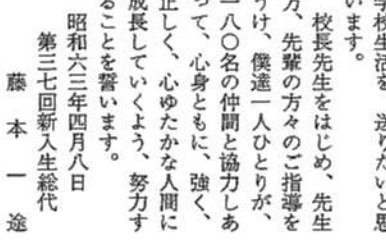
就任にあたって

校長 ゲータン・ラバディ

新校長の挨拶として始業式で言った事をもう一度述べたい。まず最初に前校長村田神父様に感謝の気持ちを表したいと思ふ。村田神父様は創立から今日まで、ナドウ神父様、アラール神父様、ブラザー・オーペンと共に洛星の発展に欠くことの出来ない大事人です。村田神父様は三十六年間洛星と共に歩んで来られ、その内十六年間校長を務められました。こんなに長い間一生懸命洛星の為に尽くされたので洛星を考えると、必ず思い出されるのが、村田神父様のことなのです。創立者の一人として写真真の時から洛星の創立に参加され、その後洛星は、村田神父様の想像されなかったほど、立派な学校になりました。



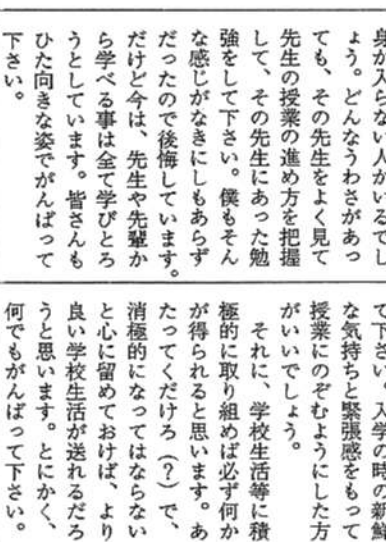
ることになりました。お元気でいられる限りいつまでも私達と一緒にいて下さい。これからどんな学校を造りたいかについてちょっと述べたいと思います。三十九年前、創立者が洛星という名前を付けた時、本当に京都の星と言われる学校に希望したのです。勿論、私も洛星は星のように輝いてもらいたいと考えています。星は輝かなければ意味がありません。星の輝きはすべての人々に光を与えてくれます。実際に星として輝くのは洛星の卒業生及び在校生の皆さんです。学校の評判は与えられた教育から判断されるものなのです。洛星の創立者は単に進学やクラブ活動だけで有名な学校にするつもりは、毛頭ありませんでした。第一の目的は立派な人間育成です。洛星の教育方針は頭と心と体を鍛えるという三本柱から成り立っています。三つとも大事なことは言うまでもありません。その中で、一番人間らしさを養うのは心の教育です。真の人間の価値は心で決まるとは、キリストの教えであります。キリストの教えは、特に愛の掟の中にまとめられています。「互いに愛し合う」君達のものであります。



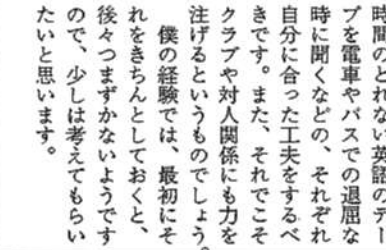
ならば、それによって人は皆あなたたちが私の弟子であることを認めるであろう(ヨハネ一三・三五) 彼の言葉で言いかえれば皆さんが互いに愛し合うならば皆さんは本当の意味で洛星の生徒であると言えるのです。実際にいつも愛をもって接する人間を育てたいと思っています。その愛は自分の為ではなく、自分の国、自分の家族、自分の学校、他人、他国の人々に対してなのです。愛を持って人はいつでもどこでも紳士のようにあるまい、又こんな人はどんな事をして責任を持つて一生懸命やります。そしていつの日か、その人は素晴らしい実を結ぶ結果をもたらすのです。



古い歴史と、文化の町、ここ京都の町並みにも、春の息吹が、さわやかに感じられる季節となりました。今日、あこがれの洛星中学校に、希望と勇気あふれる皆さんが入学されました。今日から始まる三年間の高校生活は、将来、実社会に踏み出すための最も大切な時期であると考えます。その大切な時期を、この洛星高校で過ごせることを私は大きな喜びと感じております。今、私達が「洛星」で学び始めようとしている全てのものが、やがて到来する二十一世紀を支える上で、重要なものばかりであると思ふ。



今日から始まる三年間の高校生活は、将来、実社会に踏み出すための最も大切な時期であると考えます。その大切な時期を、この洛星高校で過ごせることを私は大きな喜びと感じております。今、私達が「洛星」で学び始めようとしている全てのものが、やがて到来する二十一世紀を支える上で、重要なものばかりであると思ふ。



今日から始まる三年間の高校生活は、将来、実社会に踏み出すための最も大切な時期であると考えます。その大切な時期を、この洛星高校で過ごせることを私は大きな喜びと感じております。今、私達が「洛星」で学び始めようとしている全てのものが、やがて到来する二十一世紀を支える上で、重要なものばかりであると思ふ。

今日から始まる三年間の高校生活は、将来、実社会に踏み出すための最も大切な時期であると考えます。その大切な時期を、この洛星高校で過ごせることを私は大きな喜びと感じております。今、私達が「洛星」で学び始めようとしている全てのものが、やがて到来する二十一世紀を支える上で、重要なものばかりであると思ふ。

好きな食べ物は私はお好み焼き。庶民的でしょ。あれやっぱ関西のものやね——大阪の生まれですか。

いや京都ですよ。小学校

——どうもありがとうござ
いしました。

チャリテイコンサート

の舞台裏

四月八日本番前日
三時半になるとオケボックスに部員が集まってきた。
「集合」の時間である。
今日一番の仕事は会場作り
「高校生は上(舞台)、中学生は下(並べ)して下さい」

反響板同好会や村上先生に
手伝ってもらって舞台を作
っていく。
四時五十分作業完了。
「下で練習します」

五時十五分「総練」が始ま
る。
小笠原先生の表情が思わし
くない。
「ばらばらの気持ちでやっ
てる」

十時半に集合し、パート毎
に練習した後、各自いすや
譜面台、楽器などを舞台に
上げる。今一つ不安の残る
金管パートが舞台の上で最
後の追い込み。
「良くなってきた」

五時四十五分。開場まで十
五分もあるというのにこん
な行列が。

六時開場。予想外の盛況に
千七百部用意したパンフレ
ットが品切れになってしま
った。

会場は大入り満員である。

裏方の皆さん。
場内放送担当の放送部と
照明担当の演劇部

ここでも反響板同好会が
を発揮。

局 說

説局 今回は通学のマナーについて気づいたことを書いていきたい。六時限の授業を終え、さあ、帰ろうとするとまず道一杯に広がってテレビレ歩いている流星の生徒が目につく。バス停に着くと、バス停が紺の制服あるいは流星色のカッターシャツの群れが目につく。この群れはバスが到着すると一直線にバスの乗口に向い、押し合いへし合いを産み出す。こういうのを毎日目にする、もう少し通学マナーをよくできないものかと考えるをえな。

終礼が終わればすぐに帰りたいというのは分かる。早く家に帰りたいというのも分かる。友達といろいろしゃべりしながら帰りたいというのも分かる。しかし一般の通行人、バス電車利用客のことを気遣いながら通学するのが本当の通学というものだ。一般の人は通

と、不平をもらしていたのを聞いたことがある。集団の下校がある程度一般の人に迷惑をかけることは仕方のないことだと思ふ。某大学学生の集団下校が僕達の目にどのような映るかを考えても、大学生でさえ一般の人にかける迷惑をかけているのになしてや我々中・高校生が迷惑をかけるいことがあろうか？いや、仕方のないことだと言へるだろう。とはいふものの、一般の人にかける迷惑は最小限に食い止める心がけが必要であらう。

まず道で群がって歩く時通行人があればすぐ道をあける、といふことを心がけてほしい。下手に暴力団の人にぶつかるようなことがあれば、他校生にいちゃも

んをつけられるようなことでは済まないことは請け合いです。次にバス停で。西大路通りの真ん中ぐらいまで押し寄せるなんてことだけはやめていただきたい。特に中学生に多いのだが、これは通学のマナー以前の問題だ。とにかく危険なのである。バスの運転席席の視野はかなり狭いもので、過つてはねとばされる可能性がある。別に老人や体の弱い人に席を譲ろうとか、道徳的なことを言っている訳ではないのだからこれぐらいは気を付けてほしいものである。最後にバスの中のマナー。おしゃべりはいい。カバンを席に置くのもいい。ただ、一般利用客にとって不快感を与えるようなノイズを醸し出したり我こそは、と席のとり合いをしたり、通路の真ん中にカバンを置いたりなど、迷惑をかけることだけはやめていこう。これが通学マナーの最小限である。

六時十分。最後の集合。「二十分になったら上に上がります。上がったら静粛服装をきちんとする。指揮者の手をしっかりと見て、言われた事を思い出して頑張ってください」

舞台そでで開演を待つ。大勢のお客の入場に手間どおり開演が五分延ばされる。




だが余韻に浸っている暇はない。部屋に楽器だけ置くとすぐに引き返して後片付け。

鳴り止まぬ拍手に急傘予定外のアンコールが今日のプログラムの中から演奏された。

全曲終了。

打ち上げ。ジュースがふるまわれる。みんな満ち足りた顔をしている。




やつと最後のモップかけにこぎつける。時刻は九時半



りにしておかなければならない。


打ち上げの後片づけをする偉い1stバイオリンの面々



オケボックスの灯が消えたのは夜十時十分であった。収益百十三万二千三百五十円（広告収入の予定含む）はカトリック中央協議会のはカトリック中央協議会を通じて海外の援助を必要とする国に送られる。


SPECIAL THANKS

撮影済フィルムを拾ってくれた反響板の吉田君、もそも相談を持ちかけた金笠PLの織田君他関係者の皆さん、当日夜九日にフィルムを売ってくれた白鳥フナト様、有難うございませう。



SPECIAL THANKS
撮影済フィルムを拾ってくれた反響板の吉田君、もともと相談を持ちかけた金笠P.L.の織田君他関係者の皆さん、当日夜九日にフィルムを売ってくれた白鳥フナト様、有難うございました。

四月八日本番前日
三時半になるとオケボックスに部員が集まってきた。
「集合」の時間である。
今日一番の仕事は会場作り
「高校生は上舞色、中学生はいす並べて下さい」



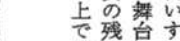
反響板同好会や村上先生に
手伝ってもらって舞台を作
っていく。
四時五十分作業完了。
「下で練習します」

五時十五分「総練」が始まる。

小笠原先生の表情が思わしくない。

「ぼららの気持ちでやってる」

午後は一時半からリハーサル。三時四十分に終わりのサインが鳴る。観客席は立派な木造で、ステージは広い。照明は明るく、音響も良い。練習の後、各自の楽器や楽譜を整理し、次の演奏に向けて準備を整える。この日は、午後の練習と夜の公演の間には、簡単な夕食を食べ、リラックスする時間がある。



「良くなってきた」

五時四十五分。開場まで十五分もあるというのにこんな行列が。



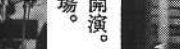

六時開場。予想外の盛況に千七百部用意したパンフレットが品切れになってしまった。



会場は大入り満員である。





開演。指揮小笠原先生の登場。




裏方の皆さん。
場内放送担当の放送部と
照明担当の演劇部

今日のパンフレットが配られる。



夜も遅いので早々にお開きとなる。



▼性懲りもなく又出てきてしまった。でも藤田先生がECLから出向させてくれた新局員のおかげで多分、その内引退できそうであつた。印刷屋さんとか顧問に「明日には出稿できます」と言いつつ一週間も延びてしまった。狼少年と呼ばれる日も近い。(類聚少年)▼やつと、新入生歓迎会が出来ました。なかなかタイムリーでしょう。これこそ我が洛星新聞の真骨頂です。高校2年生が北海道から帰ってきてかなりになります。が、研修旅行特集号が、出るのかなり先になりそう。な気配です。ご容赦を。

（まだまだ現役）

▼英語でのインタビューは大変でした。我々と彼女の笑い話がズレたり、彼女がアイ・ドント・ノーを連発したあたり、会話が成り立っていません。……と心配です。インタビュー記事のあらさがしなどつまらない事をしないように！

（めぐめぐめぐJ.R.東海）

▼ふっふっふついにやってきました。ECLからトレードされた新聞局の呂明賜のはずが初めからサボってしまった。このままでは、高皿を引退させて実権を握るなど夢の又夢である。これからまじめになって、次の他校訪問までには……

（蠅の帝王ベルゼバブ）

▼一番最初入った時、「五月か六月に出す」と言われたのに、仕事を六月から、はちばちやり始めた。ので、編集長津田氏に「あかん」といわれてしまった。それなのにしめ切りを、一日のばしでもらったこのあつかましさ。

（次々期独裁者）

スタッフ

編集長 HⅢA 津田憲言
局長 HⅢE 本郷偉元
局員 HⅢA 竹澤京介
M3A 大森崇利
M2B 高橋正樹
顧問 英語科 藤田先生